

分科会報告 **A分科会**

●テーマ：震災① 防災への取り組み

- 司会：島田マリ子（福島県建築士会、(有)ファルデザイン）
 ●アシスタント：土屋彩子・村上淳子（ともに福島県建築士会） ●出席者：29名

**主旨**

近年、自然災害が多発する日本。東日本大震災においては、地震・津波など自然災害のほか、原子力発電所事故による放射能災害、人による災害をも露呈することとなった。この経験は、さまざまな災害から人々の命を守るための仕組みづくりの重要性をより一層強く感じさせるものであった。

そこで今回、防災活動を実践されている北海道と青森県の建築士会の取り組みを紹介していただき、その手法やさまざまな問題について学び、参加者の方々に意見を聞いた。

**事例発表1
「避難について」**

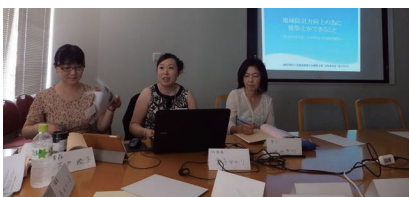
コメンテーター：金子ゆかり（北海道建築士会）

災害発生後に安全な避難を確保して人々を守る災害対策として、2007年以降、災害図上訓練や事業再開のためのワークショップを行う。参加者の偏りや避難場所不足などの興味ある問題点を提示。今後は、学校との連携や既存建物も避難場所として提案していく。

参加者からは、国と住民をつなぐ役割をしていることについて賞賛の声があがった。

■意見の要約・成果

- 他団体の活動も調査する必要がある。



●左／古戸睦子氏、中央／金子ゆかり氏

- 訓練する側もされる側も、それぞれが地域の現状調査をしてみる。
- 避難マップ作成とともに、実際に歩いてみる。
- 避難場所をこちらから設定するだけでなく、必要と思われる場所について地元の声を聞く。
- 危ない場所のランキングなどを声掛けする。
- 縦割り行政のやり取りには人間関係の繋がりを構築。粘りある交渉を。

**事例発表2
「建物の耐震性について」**

コメンテーター：古戸睦子（青森県建築士会）

地震に強いまちづくりをめざして、平成17年から、小中学校を対象に出前授業を行ってきた。しかし、これらの活動も、学校側から開催の同意がいつも得られるわけではない。今後さらに、次世代に継承できる防災のまちづくりをめざす。

参加者は、授業中の子どもたちの好奇心に満ちた様子や、難しい計算に取り組む様子に感嘆の声。このような授業を全国で展開できたら、将来建築士を志す子どもたちが増えるかもと期待した。

■意見の要約・成果

- 学校の授業の中に組み込めたらよい。
- 幼稚園耐震診断に、既存のチェックシートの応用的活用を期待している。
- 学校等の天井などの二次部材についての安全性・耐震性は重要。
- マンションなどに住んでいる子どもにも理解できる構造の説明も必要。
- 活動内容は、まとめをプレゼンすることが大事。



●A分科会の様子

参加各県の防災活動例

- 宮城県・茨城県：津波対策として、盛んに盛土や防潮堤をつくっているが、不満を感じている。
- 徳島県：防災研究会活動を行っている。
- 大阪府：府より耐震診断の依頼を受けている。
- 福島県：防災リーダー講習会を受け、女性視点の検討が重要と認識。次世代に負の財産を残さないため脱原発が防災であり、現在、再生可能エネルギーについてリスクを含めて勉強中。

まとめ

発表内容が机上調査のみでなく、実践的・持続的・行動的・多様性に優れていて感動した。今回の発表で重要なことは、今後、問題についてどのように対処・改善し、進化させていくかということだと思う。2県は、その方向性もしっかり捉え示していた。

今後、私たちも同様な活動を推進することで、国民の皆様に、防災への意識が根づくことを心から願って、まとめとしたい。